

2026年度 法科大学院

第2期入学試験問題

4時限

民事訴訟法・刑事訴訟法

(論文式)

試験時間合計 80分

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子の1ページから問題が掲載されています。
3. 試験時間中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は手を挙げて監督に知らせてください。
4. 解答用紙は2種類あり、それぞれ受験番号および氏名の記入欄がありますので、監督の指示に従って正しく記入してください。
5. 必ず【民事訴訟法】の解答は【民事訴訟法】の解答用紙に、【刑事訴訟法】の解答は【刑事訴訟法】の解答用紙に、記入してください。また、必ず解答用紙の解答欄に一つずつ記入してください。解答欄以外に記入された解答はすべて無効とします。
6. 解答用紙は各1枚しか配布しません。複数枚請求されてもお渡ししません。
7. 貸与した六法以外の参照は一切できません。
8. 試験問題の内容等について質問することはできません。
9. 問題冊子の余白等は適宜使用してかまいませんが、解答用紙の解答欄以外に記入された解答は無効とします。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

[民事訴訟法]

- 問1 XがYを被告として提起した甲土地の所有権確認訴訟の係属中に、Zが、X Y双方を相手方として甲土地の所有権確認を求めて独立当事者参加の申出をしたとする。この参加の申出は認められるか。
- 問2 裁判所は、問1の申出を認めてZの各請求を認容し、XのYに対する請求を棄却した。これに対して、Xのみが控訴したところ、控訴審は、甲土地の所有権がXにあるとの心証を抱いたとする。この場合、控訴審は、XのYに対する請求を認容判決に、ZのXに対する請求を棄却判決に、ZのYに対する請求を棄却判決にそれぞれ変更することができるか。

[刑事訴訟法]

司法警察員K1らは、暴力団の構成員であるXが覚醒剤を売り捌いているとの情報を得て内偵捜査を進め、覚醒剤取締法違反の被疑事実でXの逮捕状を裁判官に請求し、発付された。K1らは、この逮捕状に基づいてXを逮捕するため、Xの居宅であるAマンション301号室に赴いた。K1らは玄関のチャイムを鳴らして来意を告げると、Xがドアを開けた。そこでK1らは301号室内に入ると、同室内の廊下で逮捕状を呈示し、Xを通常逮捕した。さらに、司法警察員K2は、301号室の奥へと侵入し、リビングルームと寝室を刑事訴訟法第220条第1項第2号によって搜索した【搜索①】が、覚醒剤取締法違反の証拠となる物は何も発見できなかった。

Xが自家用車で覚醒剤を運んでいるとの情報があったことから、K1は、Xに自家用車の所在を尋ねたところ、Aマンションは賃貸物件であるところ、居住者用の駐車場の空きがなかったことから、同所から約80メートル離れた場所にある月極駐車場の一区画を別途に賃借して自家用車を駐車している旨を述べた。そこで司法警察員K3が直ちにその駐車場に赴き、Xの自家用車の窓を工具で破壊してドアを開けると、刑事訴訟法第220条第1項第2号により同車内を搜索した【搜索②】。車内から覚醒剤が発見されたため、これを差し押さえた。

上記【搜索①】及び【搜索②】は適法か。それぞれについて理由を示して答えなさい。